

ヲ②⑦コバノヒノキシダ②⑧イワデンダ②⑨ビロウドシダ③⑩ヒメノキシノブがついていた。又道のへりでは③⑪ワラビ③⑫ゼンマイ③⑬ヤマイヌワラビ③⑭ヒメワラビ③⑮ヒメシダ③⑯イヌガンゾク③⑰ヌリワラビ③⑱スギナ③⑲キョダキシダ④⑰ツヤナシイノデ・ヘビノネゴザ等を、五丁目と書いた石標が立つている石門附近では④⑱エビラシダ④⑲エゾイワデンダ・ツヤナシイノデを見た。この辺から一登りすれば不動寺であるが、寺の左側下方に露出している大岩壁が気になるので行つて見たが、日当りがよくて乾燥し④⑳クモノスシダの小さいものの外には何もついていなかった。岩の下の落葉のぶくぶくする中では④㉑ナツノハナワラビ④㉒イワガネゼンマイ・ニシキシダを見た。不動寺に着くと荷物を置いて滝の方へ行つてみた。滝は貧弱でシダも少ない。僅かにフクロシダ・ミヤマウラジロ・イワデンダ・イタチシダ・④㉓イワヒバ④㉔ノキシノブ・ジョウシユウコガネシダを見るだけであつた。ジョウシユウコガネシダは滝から奥の院へ行く道端にあつた。そこはむしろ日当りのよい比較的乾いた場所であつた。寺の二階で午食をすませ暫らく休息した。登つて来た谷を見下ろすと黒滝の家も谷の底に見えたと鹿岳や四ツ又が谷間のやや左寄りに高く立並んでいた。午後は寺の後ろを九十九谷道へと辿つたがシダの変化はなくて急登する岩場のあたりでジョウシユウコガネシダ④㉕ミサキカグマ④㉖ミツデウラボシが見られただけであつた。それから峠へ引返し底瀬へ下つて六車に出たが変化を示したものに④㉗ホソバシケシダ④㉘ミヤマノキシノブがあつた位で他は全部上記のもののみであつた。この行での目的物の一つであつたミョウギシダは遂に見なかつた。記録されたシダは合計51種である。この小文は黒滝山の普通の登山路についての記録であつて勿論黒滝山全体のシダを語るものではないが大凡この附近山地のシダの分布を知る上に幾分かの参考にはなるだろうと思ふ。(地図五万 御代田・富岡)

### ○植物採集覚書 (其十六) (奥山春季) Shunki OKUYAMA: Tentative list of plants for collectors (16)

長野県 (其三)

#### ○仙丈岳 (長野, 山梨県境)

原標本植物 *Melandryum apetalum* forma *Okadai* Makino タカネマンテマ 植研 2:6 (1918) (他, 塩見岳). *Carex Hidewoi* Ohwi センジャウスゲ 京大紀 B.5-3:276 (1930). *Calamagrostis Langsdorfii* var. *punctulata* Ohwi コイハガリヤス 植分 5:239 (1936). *Cirsium senjoense* Kitamura センジャウアザミ 植分 5:32 (1936). *Hypericum Kamtschaticum* var. *decorum* Y. Kimura ウツクシオトギリ 植雑 52:405 (1938) (北沢峠). *Epilobium cephalostigma* var. *linearifo'ium* Hisauchi トダイアカバナ 植研 14:143 (1938). *Anaphalis todaiensis* Honda トダイハハコ 植雑 46:373 (1932) (戸合). *Leontopodium perniveum* Honda カハラウスユキサウ l.c.

374 (1932) (戸合). *Aconitum micranthum* Nakai キタザハブシ 科博研 32:26 (1953). 植物 [羊] ヒメハナワラビ, ミヤマハナワラビ, アヲチヤセンシダ, ナヨシダ, タカネシダ, ヤツガタケシノブ. [単] コミヤマスカボ, ミヤマノガリヤス, ミヤマカウバウ, ミヤマアハガヘリ, リシリカニツリ, クロボスゲ, タカネヤガミスゲ, キンスゲ, ミヤマアシボソスゲ, イハスゲ, クモマシバズゲ, タカネズズメノヒエ, ミヤマズズメノヒエ, クモマズズメノヒエ, クロユリ, ヒメイハシヤウブ, ミヤマモヂズリ, ミヤマフタバラン, テガタチドリ. [離] ミヤマヤナギ, ムカゴトラノヲ, オンタデ, ミヤマミミナグサ, タカネナデシコ, タカネツメクサ, コバノツメクサ, イハツメクサ, ミヤマラダマキ, ミヤマタネツケバナ, クモマナヅナ, イハベンケイ, ミヤママンネングサ, ムカゴユキノシタ, シコタンサウ, ミヤマダイコンサウ, キンロバイ, タテヤマキンバイ, チングルマ, タイツリワウギ, シロウマワウギ, イハワウギ, オヤマノエンドウ, グンナイフウロ, ハクサンフウロ, ヒメアカバナ, コアカバナ, ミヤマゼンコ, ミヤマウキキヤウ. [合] イハウメ, コイハカガミ, コメバツガザクラ, イハヒゲ, ミネズハウ, ツガザクラ, アヲノツガザクラ, ケバナシヤクナゲ, ハクサンシヤクナゲ, タウヤクリンダウ, ヒメコゴメグサ, ミヤマシホガマ, タカネシホガマ, ヒメクハガタ, ムシトリスミレ, チシマギキヤウ, ウサギギク, ミヤマヲトコヨモギ, タカネヨモギ, ミヤマヒゴタイ, タカネヒゴタイ, タカネカウリソウ, ミヤマタンポポ.

#### ○駒ヶ岳(木曾)

原標本植物 *Hypericum senanense* Maxim. [ミヤマオトギリ] Mém. Biol. 12:420 (1886). *Saxifraga lyco-tonifolia* Maxim. [(アラシグサ) l. c. (1886). *Viola Tanakaeana* Makino シナノスミレ 植雑 17:86 (1903). *Draba Sakuraii* var. *nipponica* f. *intermedia* Takeda l. c. 25:196 (1911). *Aconitum Matsumurae* Nakai タカネトリカブト l. c. 28:59 (1914). *Rhododendron niko-montanum* var. *macranthum* Nakai オホキバナシヤクナゲ l. c. 41:503 (1927). *Fritillaria camshatcensis* var. *Keiskei* Makino シナノクロユリ 植研 7:24 (1932). *Leontopodium komaense* Kitamura コマウスユキサウ 植分 4:74 (1935). *Carex pseudo-Doenitzii* Akiyama コタヌキランモドキ 植研 11:288 (1935). *Cirsium kagamontanum* var. *spinuliferum* Kitamura [トゲカガノアザミ] Comp. Jap. 1:99 (1937). *Thalictrum aquilegifolium* var. *intermedium* Nakai オホミノカラマツサウ 植研 13:475 (1937). *Aconitum Sakuraii* Nakai サクラキウツ科博研 32:27 (1953).

植物 [羊] オホバシヨリマ, オクヤマワラビ, カラクサキノデ, ミヤマシシガシラ, ミヤマウラボシ, ヤマヒメワラビ. [裸] コメツガ, シラベ, タウヒ, ハヒマツ, ミヤマネズ. [単] ミヤマスカボ, ミヤマカウバウ, ミヤマコメススキ, イハスゲ, ミヤマアシボソスゲ, キンスゲ, イトキンスゲ, ミヤマクロスゲ, キンチヤクスゲ, タカネクロスゲ, ミヤマキ, クモマズズメノヒエ, チシマアマナ, ヒメタケシマラン, ヒメイハ

シヤウブ、コバイケイ、サルマメ、キソエビネ、キンセイラン、ミヤマチドリ、コイチエフラン、アリドホシラン、ヒメミヤマウヅラ、ホザキイチエフラン、ミヤマフタバラン、シヨウキラン。〔離〕ミヤマヤナギ、ミヤマハンノキ、ヤハズハンノキ、ムカゴトラノヲ、オンタデ、センジュガンピ、タカネツメクサ、ハクサンイチゲ、バイクワウレン、ミヤマキンボウゲ、シナノキンバイ、コマクサ、ヲサバグサ、ミヤマタネツケバナ、クモマナヅナ、ハクセンナヅナ、イハベンケイ、アラシグサ、コマガタケスグリ、クモマグサ、チャウノスケサウ、コガネイチゴ、ベニバナイチゴ、チングルマ、タテヤマキンバイ、タカネナナカマド、イハワウギ、オヤマノエンドウ、ハクサンフウロ、ガンカウラン、クロツリバナ、タカネスミレ、ミヤマゼンコ。〔合〕イハウメ、コメバツガザクラ、イハヒゲ、アヲノツガザクラ、ツガザクラ、キバナシヤクナゲ、ヤエキバナシヤクナゲ、ハクサンシヤクナゲ、ウラシマツツジ、クロマメノキ、オホサクラサウ、コハクウンボク、タウヤクリンダウ、ミヤマアケボノサウ(シマイケアケボノサウ)、ミヤマシホガマ、セリバシホガマ、ミヤマクハガタ、オニク、ミヤマムグラ、オホヘウタンボク、チシマギキヤウ、タカネウスユキサウ、タカネヨモギ、ミヤマヲトコヨモギ、ハハコヨモギ、カヒタカラカウ、ヒメウスユキサウ、ミヤマカウヅリナ、シラネアザミ、クロタウヒレン。

**〇ヤマイワカガミの白花品** (檜山庫三) Kōzō HIYAMA: *Shortia soldanelloides* var. *intercedens* f. *candida* forma nov.

ヤマイワカガミに純白花品があるので記録しておきたい。これは昭和5年に私の父が甲州の七面山で採つて私へのみやげに持ち帰つたものであるが、イワカガミともヒメイワカガミとも葉形が變つているので、当時牧野先生にご覧に入れたところヒメイワカガミだと申されたままに今までしまいこんでいたところ、今度ヤマイワカガミというものが記載されたので、改めてこのものにシロバナヤマイワカガミの和名を与え、学名は次のように定める。

*Shortia soldanelloides* (Sieb. et Zucc.) Makino var. *intercedens* Ohwi, Fl. Jap. 872 (1953) & in Bull. Nation. Sci. Mus. no. 33:81 (1953).

forma *candida* Hiyama, nov. f. Flores albi.

Hab. Hondo: in monte Shichimen-zan, Prov. Kai (leg. Eitaro Hiyama, 1930)  
—in Herb. Nation. Sci. Mus. Tokyo.

**□新刊**

水口 清: 和歌山県植物方言集 130 頁 150 円 和歌山県東牟婁郡色川村色川中学校先に秋田の植物方言、淡路の植物方言を出版した著者が郷里に戻つて昭和11年以來苦心して蒐集したもの。